

福井大学学術協定校への派遣留学（交換留学）月例報告書（9月分）

留学先大学：Vytautas Magnus University

氏名：佐藤 誠

8月下旬の新生と留学生に向けたオリエンテーションが終わり、9月第一週より本格的な秋学期が始まりました。春学期と比べて、1カ月期間が短いため土曜日に授業が開講されることがあります。詳しい履修登録については10月の月例報告書にて記載したいと考えています。

例年に比べて今期の秋は比較的に温かいようで、写真のように晴れた日にはカウナスやビリニュスで気球が上空に上がっているのをよく目にします。



【橋（日本文化クラブ）でのプレゼン】

以前の報告書で橋の活動について紹介したと思いますが、9月の下旬に橋でプレゼンする機会がありました。日本の地理と文化に関連する話題をプレゼンすることが前提だったので私の故郷である岐阜の文化について説明しました。プレゼンが終わった後にそれに関連する質問をたくさんもらったことや、プレゼン中も興味深く聞いてもらっていることがよく分かったので、最後までやりきれてよかったと思えました。この左下の写真のようにVDUでは日本の文化に興味を持っている学生がいるので、交流の場も自然と多くなります。



【スギハラウィークについて】

9月3日～9日にかけてスギハラウィークと呼ばれる日本とカウナスの交流イベントが開かれました。このイベントは去年よりVDUのアジアセンターが主催となって日本とカウナスの友好を深めるために行われています。右上の写真は杉原千畝に関連する国際シンポジウ

ムの様子で日本をはじめ、イスラエル、アメリカ、フランスなどの大使館からのゲストやそれらの国の研究者が第二次世界大戦時においてユダヤ難民を助けた外交官に関するプレゼンを行い、意見を交流する場でした。この中で印象に残ったのは、杉原氏の四男である伸生さんが出席されていたのですが、杉原千畝の歴史事実の認識を含めそれらの事実や根拠を基に皆で正しい歴史認識をしようとする姿勢が彼の言動から感じられたことです。戦時中に勇気のある決断を下した彼の功績は敬服に値しますが、その一方、日本では彼の一連の話をメディアが都合の良い作品を作るために、事実に基づいていない情報を用いてそれを歪曲している現状もあります。これよりメディアリテラシーの在り方をもう一度見直し、様々な情報に対して批判的かつ客観的な姿勢を意識して生活することの大切さを学びました。実際にスギハラハウスでインターンシップをしているので、記念館で活動をする時はその姿勢を心がけていきたいと思います。

また、このシンポジウムでは第二次世界大戦において難民を助けたのは杉原だけでなくフランス、スウェーデン出身など欧州出身の外交官が多くいることを学びました。留学を開始してからリトアニアや欧州の戦時中に関連のする記念館を多く訪問する機会があり、第二次世界大戦の悲惨さを体感することを通じて、以前よりも国際情勢について興味を持つようになりました。また欧州や日本の歴史を学ぶことや現在の国際社会における日本の立場を改めて考える時間も増えました。私自身が留学中に国際関係や政治の授業を専攻していることや、杉原記念館でインターンシップをしていることが関係しているかもしれませんが、日本にいる時よりも身近にこれらの話題を捉えられるようになり、それに関係する情報を集めたり自分の考えを整理したりすることを習慣的に行うようにもなりました。これはリトアニア留学をして良かったと思える1つの理由です。

ビリニュス, KGB 博物館 (左下)

ソ連時代に秘密警察官であった KGB が 1991 年まで実際に本部としていた博物館。ソ連諸国の政策に関する授業を履修していたため、関心がありました。実際の地下にある牢屋や拷問部屋を訪問したが、当時リトアニアが経験したソ連による抑圧を体感できました。



ア尼克シェ (右上)

カウナスから車で 2 時間近く離れた地域。リトアニアの自然の豊かさを感じられる場所。友達の実家も近いため、家族に温かく迎えられ、昼ご飯を頂きました。

東部の港都市,クライペダで 25km のトレッキングイベントに親しくしているリトアニアの家族と参加してきました。

近くのニダ (写真右) では、ユネスコ世界遺産に登録されているクルシュ砂丘があります。海に囲まれているので、晴天時は美しい景色が見れます。

